

14

「宮古島くるりんバス」
の実証運行について

宮古空港の利用者は年々増加しており、平成28年度は154万人と3年連続で過去最高を更新しました。また、宮古島へのクルーズ船寄港回数は、平成28年度89回、平成29年度は138回を予定しています。このような状況下、クルーズ船寄港時には、二次交通の確保が必要ですが、訪日外国人旅行者への供給を行う事により、地域住民や観光客・ビジネスマンなどの移動手段の確保が出来ない現象が発生するため、空港と中心市街地間の移動手段の確保が重要な課題となっています。

今般、観光庁の平成29年度実証事業として、地元タクシー各社と協力し、乗合タクシー「宮古島くるりんバス」の実証運行を実施することとなりました。

運行期間は9月1日から11月30日までの3ヶ月。運行ルートは宮古空港と中心市街地及び平良港を結ぶ「北ルート」と「南ルート」で一日8便運行。時間帯は午前9時～午後5時、運賃

は一律500円となっています（学生（高校生まで）・運転免許証返納者・障がい者は一律300円、乳幼児は無料）また、運行ルート上であれば、どこでも乗降可能です。

3ヶ月の実証運行の結果を検証し、12月以降の本格運行に向けた検討を行うこととしており、「宮古島くるりんバス」の試験導入で空港利用者などの移動手段の確保や利便性向上が期待されます。



乗降の様子



「宮古島くるりんバス」チラシ

15

平成29年度 船員労働
安全衛生月間の実施

～元気に乗船、笑顔で下船、
皆で取り組むゼロ災害～

本年度も船員災害の減少と船内における安全で快適な作業環境、居住環境の実現を目指して9月1日～30日の1ヶ月間を船員労働安全衛生月間とし、「元気に乗船、笑顔で下船、皆で取り組むゼロ災害」をスローガンに月間中、船員災害防止大会を初めとする各種の行事を展開しました。

月間初日の9月1日（金）に、那覇第2地方合同庁舎において第44回沖縄船員災害防止大会を開催し、船員労働安全衛生月間がスタートしました。

本大会には約80名の船員、海事関係者が参加し、家族も一体となつて船員災害・疾病の減少目標の達成を目指すことを誓った大会宣言がなされました。その後、「株式会社ハタワークス」の大城朝野さんによる「働く人のメンタルヘルス」という演題で、参加者同士コミュニケーションをとりながらの講演が行われました。



大会風景



大城氏による講演

また、大会会場には作業用救命衣、救命浮環など、船員の保護具の展示場も設けられ、年々高機能になっていく保護具に参加者の関心が集まりました。

このほかにも、月間中には訪船指導も行われました。船員は長期間に渡り特殊な環境で働くため、船内の安全・衛生環境の整備が重要となります。そのため、訪船指導員が県内各港に停泊中の船舶を訪れ、安全面として海中転落事故の防止措置や床面などの転倒防止のための安全措置、衛生面として飲料水の管理状況や医薬品の備付け状況などの点検指導を行いました。